

農業に愛着をもって 多摩市東寺方小 農家が稲刈り指導

日本農業新聞掲載日：令和 7 年 10 月 22 日（水）

多摩市立東寺方小学校 5 年生約 80 人は 10 月上旬、同小学校内の田んぼで稲刈り体験をした。指導をしたのは、地元農家の小暮和幸さん（76）。

授業は、社会科の農業学習として「お米の大切さについて理解を深める」目的で毎年行っている。児童は 2 人一組となって鎌で 4 束ずつ「キヌヒカリ」を刈り、束ねて稲架掛け（はさかけ）をした。「麻ひもできつく稲を束ねるのが難しい」と児童たちは特に苦戦していた。今後は脱穀ともみすり作業も、機械を使って児童たちが行う予定。

小暮さんは「稲刈り体験を通じて、米作りの作業を知ってもらえてよかった。これをきっかけに、農業に少しでも興味をもってほしい。」と話した。



稲刈り指導をする小暮和幸さん（7日、東京都多摩市で）